

ANNUAL 事業報告書 REPORT2019



団体概要 (2019年10月18日現在)

組織名 特定非営利活動法人 門真フィルムコミッショ (Kadoma Film Commission Osaka Japan)
設立 2016年1月30日
特定非営利活動法人内閣府認証取得 2017年1月6日
登記完了 法人設立 2017年1月8日
目的 特定非営利活動促進法（平成十年法律第七号）に基づき設立された特定非営利活動法人で、映像を基軸とした海外との文化交流を促進し、相互の国の中文化を尊重し合える社会を構築し、映像業界の次世代を担う人材育成に繋がる事業を行い、また映像を用いた魅了あるまちづくりに寄与し、地域を活性させ、町と映像文化の健全な発展に資することを目的とする。

事業内容 (2019年10月18日現在)

定款抜粋 第2章 第3条 「本法人は、地域にある町の魅力の伝播の薄れや、地域愛の希薄さ、地域に誇りを持つことに対して、映画や映像に関する事業を行い、地域の魅力を伝え、魅力あるまちづくりに寄与し、地域の活性化を目的とする。
事業区分 定款第3条に規定する目的を達成するため、次の特定非営利活動に係る事業を行う。
(1)地域の魅力を映像、音声、文書、インターネットなどを通じて発信する事業
(2)地域の魅力を発信するための人材育成事業
(3)映画祭や上映会、また音楽や映像や俳優などの映画の構成要素を活用してのイベントなどを通じて地域の活性化を図る事業
(4)その他目的を達成するために必要となる事業
事業
・門真国際映画祭
・フィルムエンターテインメントレーティング機構
(英語表記「Film Entertainment Rating Organization」、略称「FERO」)
・映像翻訳サービス（英訳、和訳、海外映像の音声吹き替え／字幕制作）
・門真国際映画祭アーカイブ事業
・すて猫スタープロジェクト（町猫の映画出演サポート）
・イベント撮影事業（町のイベントを映像化し、魅力を伝えるコンテンツを作成）
・コミニティ劇出事業（上映会、飲食部、写真部、ラジオ部などのイベントを開催）
・映画制作事業（映画を制作することで、その過程の楽しさを伝える）
・ワークショップ事業（8回の受講で映画をつくるワークショップなどを開催）
・ラジオ番組制作（「今夜、門真的バ-で」、「国際映画祭が選んだこの映画」など）

特別後援 ※敬称略 50音順

株式会社アドビシステムズ、京阪ホールディングス株式会社、J:COM、パナソニック株式会社、ラジオ大阪

特別協力 ※敬称略 50音順

株式会社N S E、株式会社ネクステージ

提携映画祭 ※敬称略 50音順

中之島映画祭、New York Japan CineFest

支えてくださった企業・団体の皆様 ※敬称略 50音順

アジアンショップ ムタサン、イタリア文化会館-大阪、イラストワーク カムカム、株式会社エムケー、大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部、画家の自写真館、門真市立公民館、門真市シルバー人材センター、カドマリショ、門真れんこん未来創造プロジェクト、門真れんこん屋、医療法人 健河会 河村クリニック、真宗大谷派 光明山 願得寺、グラスショップ サエラ、こどもアート教室PICARO、サウンドワーク・アシュリー、関前諸島岡村島映画祭実行委員会、有限会社桜めいぼう、スタジオ グュ、ゼンケイ整体院 定村寛定、佐野幸雄司法書士 行政書士 事務所、ダンススクールmagnet、喫茶チエブロー、ついであらん、徳丸商事株式会社、BAR TREK、株式会社中村工務店、曹洞宗 天王山 南鈴寺、FM-HANAKO、はま太郎、ふいるふいへる、ヘア&メイク Blue Stone、ブルクード橋口株式会社、有限会社 本澤組、松園建設株式会社、まじめや門真店、門真を愛する市民の皆様

理事・役員・顧問

理事長 奈須崇（門真国際映画祭運営事務局代表）
副理事 松本和明（役者ナットコム代表）
合屋正虎（門真フィルムコミッショ NY支部 支部局長）
事務局長 佐久間京子（門真国際映画祭運営事務局 事務局長）
理事 武信貴行（慶典院コミュニティシネマ座長・門真国際映画祭アーカイブ主任）
本村洋典（プログラマー）
金哲義（劇団主宰 MAY所属）
山口恵司（ヤマグチシャン代表・カメラマン）
古田志保（心理セラピスト）
水野いくよ（俳優・すぐらんぶる えっぐ代表・演技指導者）
佐久間淑子（事務）
藤田由紀子（あわてんぼうわんちゃんとゆっくりカタツムリさんの会 代表）
二階堂弘美（俳優・全米ヨガアライアンスRYT 200修得 ヨガ講師）
林知明（映像監督・カメラマン）
小宮さえこ（こどもアート教室「PICARO」主宰）
永山栄潤（書道家・日本教育書道院教師）
渡部洋（演技指導者）
小嶋享（門真フィルムコミッショ番組企画部 部長・カメラマン・ライター）
小瀬朝美（俳優・フリーベント企画アルティスティックプロデューサー）
徳丸新作（俳優・ラジオパーソナリティ・殺陣師・怪談師）
豊島礼子（ラジオ音響オペレーター）
吉村昌晃（合同会社 翔エンターテイメント代表）
川口新五（俳優）
清水宏亮（フィナンシャルプランナー）
河野洋（Mar Creation, Inc. 代表）
楠田たく（イラストワーク カムカム代表）
宮園厚司（ジャーナリスト）
月橋宏隆（中之島映画祭 企画長）

特定非営利活動法人 門真フィルムコミッショ
Kadoma Film Commission Osaka Japan

〒571-0037 大阪府門真市ひえ島647番地の17
TEL 06-6914-4427
FAX 06-6914-4427
e-mail info@kadoma-film.com

ごあいさつ

できることを、できる範囲で、なるべく楽しみながらやる。これは特定非営利活動法人 門真フィルムコミッショングの基本理念です。これを逆説的に述べると、できないことは、できないので、楽しくないからやらない。ということになります。ボランティア活動は対価が支払われず心のご褒美がなければやらない方がいいし、自分がやりたいと思ったことをやる方が随分と建設的で健康的です。ですが例えば、5年前の私は国際映画祭を発足しろと言ったり、映画をてくれと言ったとしたなら、これはまさに、できないことは、できないので、楽しくないからやらない。という判断に至ったはずです。一人では到底できないことも皆に助けられながらやり遂げることができます。仲間は大切です。支援してくれる人も大切です。仲間がいて支援してくれる人がいるからこそ何かを成し遂げたり、新しい何かにチャレンジすることができます。このレポートを読んでくださっているということは、仲間であり、応援してくれている方であり、支援してくれている方です。もしも誰かが置き忘れていて偶々このレポートを拾って読んでいる方がおられたら、この偶然を必然に変えるために私と喫茶店に行ってキャラメルマキアート的な何かを飲みながら映画の未来についてお話をしましょう。きっと刺激的で先の読めない世界が広がるはずです。そうです。先が読めないです。だからこそ面白いのです。でもあまりに先行きが不透明だと私自身も不安になりますから、実はそれなりに行き先を決めてから歩いているということを今日はお伝えしたいと思います。門真フィルムコミッショングでは、2025年度を最終年度とする未来地図「長期ビジョン2025」とその実現のための中期計画「中期フォーカス2020」を定め、2016年度から取り組みを進めてまいりました。皆様のお力添えを得て、おかげさまで一定の社会的評価をいただいております。生きていて毎日新聞の一面を飾ることになるとは思いもしませんでしたし、スウェーデンの新聞やコロンビア政府の文化省のサイトに掲載される日が来るとは思いもしませんでした。コロンビア政府ですよ？コロンビアと一切関りが無かった所から一気に政府のサイトに載るんですよ。人生って何があるか分からないものですね。それで言うと内閣府に足を踏み入れる日が来るとは思いもしませんでした。「ふるさと名品オブ・ザ・イヤー」の政策奨励賞を受賞したことは生涯忘れられないできごとです。J:COMの皆様、市役所の皆様、そして私に応募するよう促してくださった酒井さん、ありがとうございます。副理事の松本さん、事務局長の佐久間さん、内閣府、刺激的でしたね。個人への賞とはいえど、皆で頂いた賞なので大切にしたいと思います。賞と言えばインドネシアの皆様からは文化功労賞と文化奨励賞を賜りました。インドネシアには門真フィルムコミッショングの木が植樹されているとの報せを理事の徳丸さんから聞いた時は、昭和な物言いで恐縮ですが、たまげました。書きたいことやお伝えしたいことは、まだまだたくさんあるのですが、きっと紙面の関係上、どこかを割愛せざるを得ないと思います。（中略）最後に理事長らしいことを述べて、ご挨拶と代えさせていただきます。私共、門真フィルムコミッショングは、広く社会から信頼されるNPO法人を目指し、これからもグローバルな存在感を保つつもり、地域にしっかりと根差したNPO法人として地域振興、映像文化の支援に取り組んでまいります。引き続き、皆様方のご理解、ご支援を賜りますよう伏してお願ひ申し上げます。

特定非営利活動法人 門真フィルムコミッショング 理事長 奈須 崇



沿革

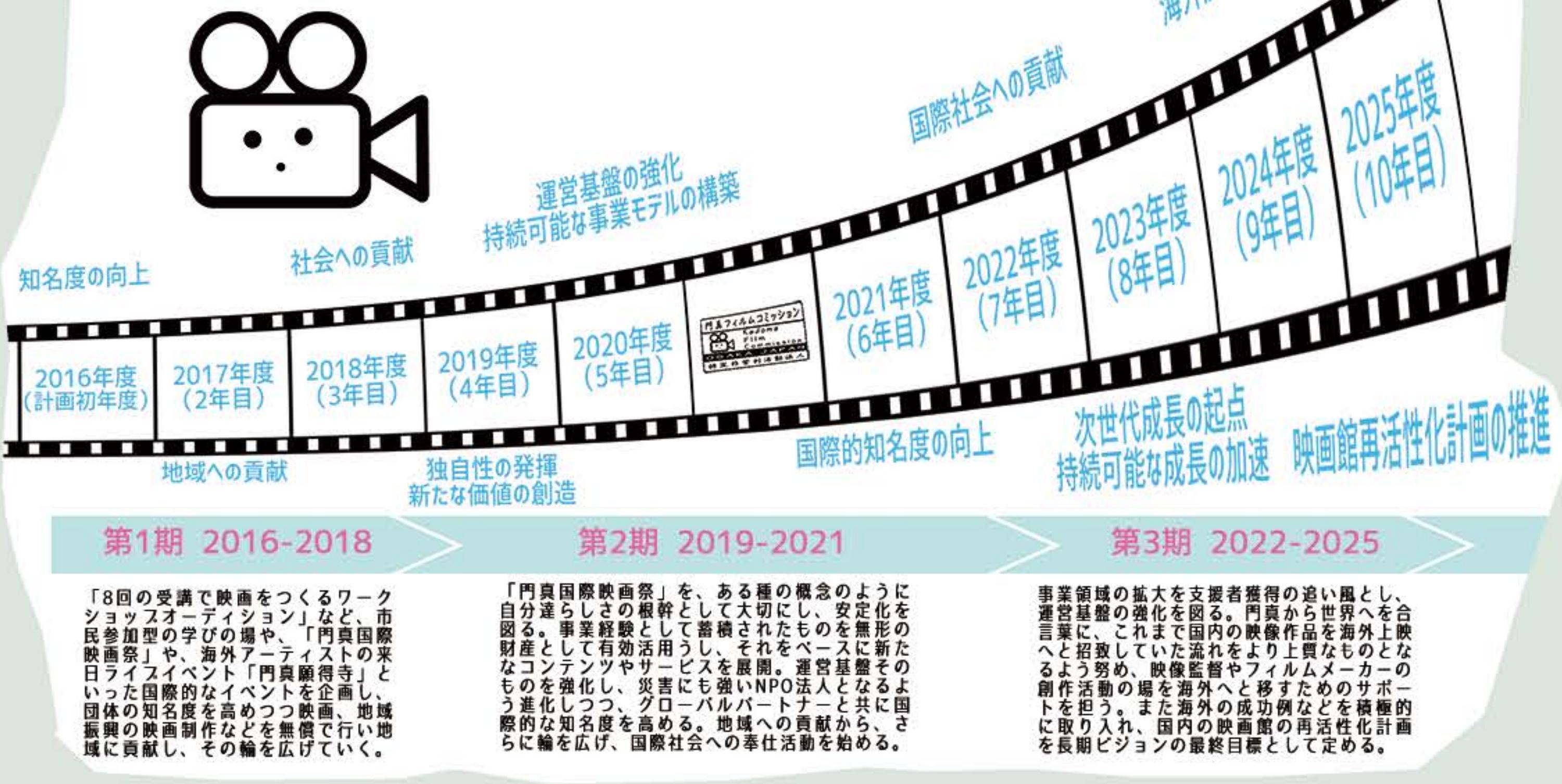
| | | |
|-------|----------------|--|
| 2016年 | 1月30日 | ロケ撮影の支援団体として「門真フィルムコミッショング」発足。 |
| | 2月11日 | 市民向けのワークショップ「8回の受講で映画を作るワークショップオーティション」を開講。 |
| | 6月15日 | 愛媛県今治市閏前諸島岡村島において第1回閏前諸島岡村島映画祭を開催。 |
| | 9月16日 | 初の海外アーティスト招致活動となるイベント「門真願得寺」を開催。 1478年（文明10年）創建の光明山願得寺にて、ブラジル人ミュージシャン「Divina Supernova」の初来日コンサートを主催。 |
| 2017年 | 11月23日 | オール門真ロケの長編映画「マイナス36°Cのふたり」の撮影において、公道でトラックを横転させるという大掛かりな撮影を敢行。 許可申請をした上の撮影であったが、本当の事故だと勘違いした消防車が救護活動に駆け付ける騒ぎとなるが、笑顔で乗り切り、無事撮了。 |
| | 12月5日 | 地域コミュニティとして「門真フィルムコミッショング写真部」が発足。同月17日、「門真フィルムコミッショング餃子部」が発足。 |
| | 1月23日 | 法人化。名称を「特定非営利活動法人 門真フィルムコミッショング」と改める。 |
| | 3月25日 | 昨年好評であった「8回の受講で映画をつくるワークショップオーティション」の第2期が開講。 |
| | 6月27日 | 平成29年 門真市男女共同参画週間講演会で奈須理事長が講演。佐久間事務局長と朗読劇『舞台女優の妻と舞台俳優の夫』を上演。 |
| | 11月10日 -11日 | 今治市の後援事業として第2回閏前諸島岡村島映画祭を開催。 |
| | 11月18日 | 「理事だけで映画をつくる企画」で制作した短編映画「菜」（監督：金哲義）が、八尾80映画祭において全国公募作品の中から入選。 |
| | 2月1日 | 門真映画祭運営事務局を開設。 |
| | 3月20日 | 世界的に活躍するダンサーで振付師、演出家のコトバタクミ氏が門真映画祭の特別審査員に就任。門真映画祭にダンスマイク部門を設立。 |
| | 4月27日 | New York Japan CineFestと提携関係を締結。同日、「門真映画祭」から「門真国際映画祭」へと名称を変更。 |
| 2018年 | 7月4日 | 捨て猫が活躍する映画制作への助成支援活動「さて猫スター・プロジェクト」のポスターが山尾武士氏のイラストによって完成。 |
| | 7月10日 | ニース国際映画祭 最優秀俳優賞を受賞のSADA氏が門真国際映画祭の公式エヴァンジェリストに就任。 |
| | 7月27日 -29日 | 門真国際映画祭2018を開催。 |
| | 10月25日 | 「理事だけで映画をつくる企画」第2弾で制作した短編映画「クローゼットの赤」（監督：林知明）が、米子映画事変・米子3分映画宴に入選。 |
| | 10月31日 | パリ州ギャナール県パリ日本文化交流協会より、門真フィルムコミッショングが文化栄誉賞を受賞。理事長の奈須崇が文化功労賞を受賞。 |
| | 2月7日 | 政府後援の民間表彰制度「ふるさと名品オブ・ザ・イヤー」において、理事長の奈須崇が政策奨励賞を受賞。 |
| | 4月3日 | 門真市民プラザ内に新たな活動拠点として門真フィルムコミッショングの事務ベースを開設。 |
| | 4月5日 | 門真フィルムコミッショングラジオ部が発足。 |
| | 7月24日 -28日 | 門真国際映画祭2019を開催。 |
| | 8月28日 | 大阪の中之島映画祭と提携関係を締結する。 |
| 2019年 | 1月 | ごあいさつ |
| | 2月 | 沿革・もくじ |
| | 3月 | 長期ビジョン2025・中期フォーカス2020 |
| | 4月 | 年間スケジュール・数字で見る門真国際映画祭2019 |
| | 5月 | 写真 |
| | 6月 | 財務報告 |
| | 7月 | 組織データ |



長期ビジョン2025

SDGs達成に向けたグローバルな事業展開を推進し、持続可能な市民社会の実現に貢献する。

2016年に発足した特定非営利活動法人 門真フィルムコミッショナは、地域振興の映画づくりや門真国際映画祭の発足、運営など、様々な活動を通して、映像の力による地域振興に努めてきました。これからも、より一層、映像文化の発展と地域振興を進めていきます。



「8回の受講で映画をつくるワークショッピング」など、市民参加型の学びの場や、「門真国際映画祭」や、海外アーティストの来日ライブイベント「門真願得寺」といった国際的なイベントを企画し、団体の知名度を高めつつ映画、地域振興の映画制作などを無償で行い地域に貢献し、その輪を広げていく。

「門真国際映画祭」を、ある種の概念のように自分達らしさの根幹として大切にし、安定化を図る。事業経営として蓄積されたものをベースに新たなコンテンツやサービスを開拓。運営基盤そのものを強化し、災害にも強いNPO法人となるよう進化しつつ、グローバルパートナーと共に国際的な知名度を高める。地域への貢献から、さらに輪を広げ、国際社会への奉仕活動を始める。

事業領域の拡大を支援者獲得の追い風とし、運営基盤の強化を図る。門真から世界へを合言葉に、これまで国内の映像作品を海外上映へと招致している流れをより上質なものとなるよう努め、映像監督やフィルムメーカーの創作活動の場を海外へと移すためのサポートを担う。また海外の成功例などを横断的に取り入れ、国内の映画館の再活性化計画を長期ビジョンの最終目標として定める。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2030年に向けた
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

新たな取り組み 中期フォーカス2020

Quality 既存事業の強化と拡大と安定化

1.『門真国際映画祭オンラインマント』

オンライン観劇サービス『観劇三昧』と協業し、映像ライブラリ・映像作家支援システムとしての機能を持つインディペンデント映画オンラインマント配信アプリの開発と運営を目指します。

「門真国際映画祭オンラインマント」は舞台映像オンラインマント配信アシリ『観劇三昧』のOEMにより、そのシステムを活用した門真国定制の会員制インディペンデント映画オンラインマント配信システムです。配信作品は門真国際映画祭の作品応募(2019年度は国内350本海外650本)と同時に募集。開催毎に作品が増えます。

Resource これまでの知見と資源の有効活用

2.『おでかけ門真国際映画祭』

映画館のない地域に映画祭を届ける事業。
被災地など一時的に映画館のない町を含め、キャンピングカーなど自立した寝泊まり飲食が可能な車両を用いてキャラバンを組み、支援物資を届けつつ野外上映会を行います。

必要な物資を適時リサーチし、なるべく軽く小さく利便性が高く、可及的速やかに必要となる支援物資をピックアップし、避難所や必要とする人に無償配布をし、その際に野外上映会の周知をします。日暮れ前にスクリーンを設営し、震災後のストレス反応に対するケアを目的として映画を上映。支援物資と映画をお届けするキャラバンとしての活動を目指します。上映する演目は、映画、アニメーション、ダンス映像、舞台映像、ドキュメンタリーなど、門真国際映画祭の入選作品です。

Creation 創造的行動力による社会への貢献

4.門真フィルムコミッショナ 番組企画部

門真フィルムコミッショナ番組企画部に所属する理事8名で、番組企画部は進行しています。

トークの間に音楽が流れるようにコントや連続ドラマが流れる番組「今夜、かどまのバー」や、年間300本以上の映画の審査をしている門真国際映画祭委員会のメンバーが、これから公開予定の映画や、今上映されている映画の中から選りすぐりの作品をご紹介する「国際映画祭が選ぶこの映画」など。10月5日に「ならどんFM」で放送された第1回目の放送でご紹介したのは、ベネチア国際映画祭で最高賞の金獅子賞を受賞したトッド・フィリップス監督の最新作「JOKER」を、「皆さん、カバの巣き窟をご存知ですか?」という何の関連があるのか見当もつかない一風変わったテーマで映画を紹介するトークを展開しました。情報発信力を強化し、人が自然と集まるように映画館の魅力を伝えていきます。



Community 地域コミュニティのサポート

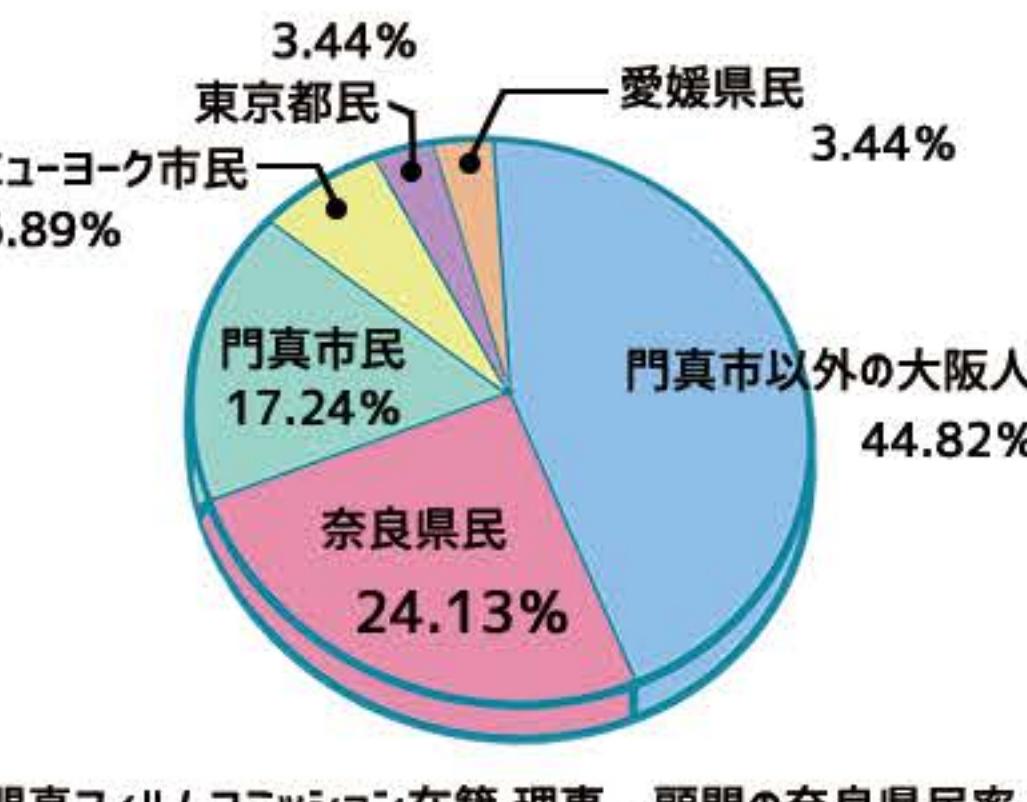
3.『門真コミュニティシネマ』

ご家庭や自治会館などで出張上映会を行い、過去の名作や、興行的に主流でない映画の鑑賞機会をつくり、心に残る豊かな映画体験を様々な人々が共に体験する学びの環境を構築します。

コミュニティの結節点として映画へのアクセシビリティを高めることで、公共上映の振興と、地域活性化、多様なコミュニティに対する多様な上映機会の提供と文化拠点の創造を目指しつつ、社会教育を基盤としたアクティビティーニング（主体的・対話的で深い学び）を構築します。としたアクティビティーニング（主体的・対話的で深い学び）を構築します。で全ての世代を対象とした上映会形式の生涯学習講座を開催します。誰も孤立しない社会やコミュニティの再生を目的とし、様々な人々、性別、世代を超えた交流を促進、つながりの好循環を育みます。

数字で見る門真国際映画祭

門真国際映画祭2019 認知度



国内と海外あわせて105作品の映像を上映。

門真国際映画祭2019を取り上げてくださった新聞社3社、ラジオ局8局、テレビ局3局。

乃木坂46の「シンクロニシティ」や「インフルエンサー」の振付師Seishiro氏が最優秀撮影賞と最優秀群舞賞をW受賞。

12の言語で映像作品の国際公募をし、38の国と地域から、1026本の映像作品の応募がありました。

小学4年生から70代の方まで幅広く運営にご参加いただきました。

ご来場者数1269人。

ありがとうございました。

特定非営利活動法人 門真フィルムコミッショナ 年間スケジュール 2019-2020

| 2019 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 2020 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 門真国際映画祭2020 |
|------------|---------------------|-------------|-------------------------|-----------------------------|--|-------------------------------|------------------------------|--------------------|--------------------|------------------|----------------------|----------------------|
| | | | | | 全世界公募開始 | 審査開始 | クラウドファンディング開始 | 協賛金依頼開始 | プレスリリース第一弾 | プレスリリース第二弾 | | |
| | | | | | 特別上映作品編集開始 | | | | | | | |
| | | | | | 門真フィルムコミッショナ番組企画部に所属する理事8名で、番組企画部は進行しています。 | 後援名義の申請開始 | | | | | | |
| | | | | | 門真国際映画祭企画書作成 | 審査開始 | | | | | | |
| 10日 定例会 | 15日 前年度の反省点の改善提案 | 20日 企画会議 | 1日 映画、ドキュメンタリー部門公募開始 | 1日 ダンス映像、舞台映像、観光映像部門公募締切 | 31日 ダンス映像、ドキュメンタリー部門2020年制作作品締切 | 29日 ダンス映像、ドキュメンタリー部門一次審査発表 | 中旬 ダンス映像、ドキュメンタリー部門一次審査発表 | 下旬 舞台映像部門一次審査発表 | 上旬 舞台映像部門二次審査発表 | 上旬 公式パンフレット完成 | 上旬 公式パンフレット入稿 | 2日 門真国際映画祭2020初日 |
| | | | 20日 企画会議 | 20日 総会 | 31日 ダンス映像、ドキュメンタリー部門一次審査発表 | 29日 ダンス映像、ドキュメンタリー部門一次審査発表 | 中旬 ダンス映像、ドキュメンタリー部門一次審査発表 | 下旬 舞台映像部門一次審査発表 | 上旬 舞台映像部門二次審査発表 | 上旬 公式パンフレット完成 | 2日 門真国際映画祭2020初日 | 3日 門真国際映画祭2020千秋楽 |
| | | | | | 1日 映画、ドキュメンタリー部門公募締切 | 1日 ダンス映像、舞台映像、観光映像部門公募締切 | 1日 ダンス映像、ドキュメンタリー部門一次審査発表 | 1日 舞台映像部門一次審査発表 | 1日 舞台映像部門二次審査発表 | 1日 公式パンフレット完成 | 1日 門真国際映画祭2020千秋楽 | 11日 門真国際映画祭打ち上げ |

2019年度 写真



政府後援の民間表彰制度「ふるさと名品オフ・ザ・イヤー」で「地方の変革に向けた機運を醸成し、地域の将来を支える取組である」との評価を賜り、政策奨励賞を受賞しました。写真は内閣府にて、片山さつき大臣と奈須理事長。



オール門真口の長編映画「マイナス36℃のふたり」撮影風景。町の人たちの助力を得て、2台のクレーン車でトラックを釣り上げて倒しました。門真国際映画祭2019で初上映し、大勢の市民がスクリーンに映る町を楽しみました。



コロンビア政府の文化省のサイトに門真国際映画祭の事が掲載されました。また毎日新聞でも1面に掲載、河内新聞や産経新聞、スウェーデンの新聞GteborgDirektでも大きなニュースとして大きく紙面に取り上げていただきました。



宮本一孝門真市長をプレゼンターにお迎えし、いつもの町の公民館が国際映画祭の授賞式会場に様変わり。授賞式は満員御礼でお立見のお客様も大勢おられ熱狂に包まれました。



アメリカ、イタリア、イラン、中国、台湾、コロンビア、オーストラリア、カナダなど、海外で活躍する映画監督達が門真国際映画祭の受賞式に参列し、門真国際映画祭の表彰楯を獲得しました。



乃木坂46『インフルエンサー』等を手掛ける注目の振付師＆ダンサーSeishiro氏が最優秀群舞賞を受賞。日本のダンスシーンを力強く牽引する氏の受賞は大きな話題となりました。

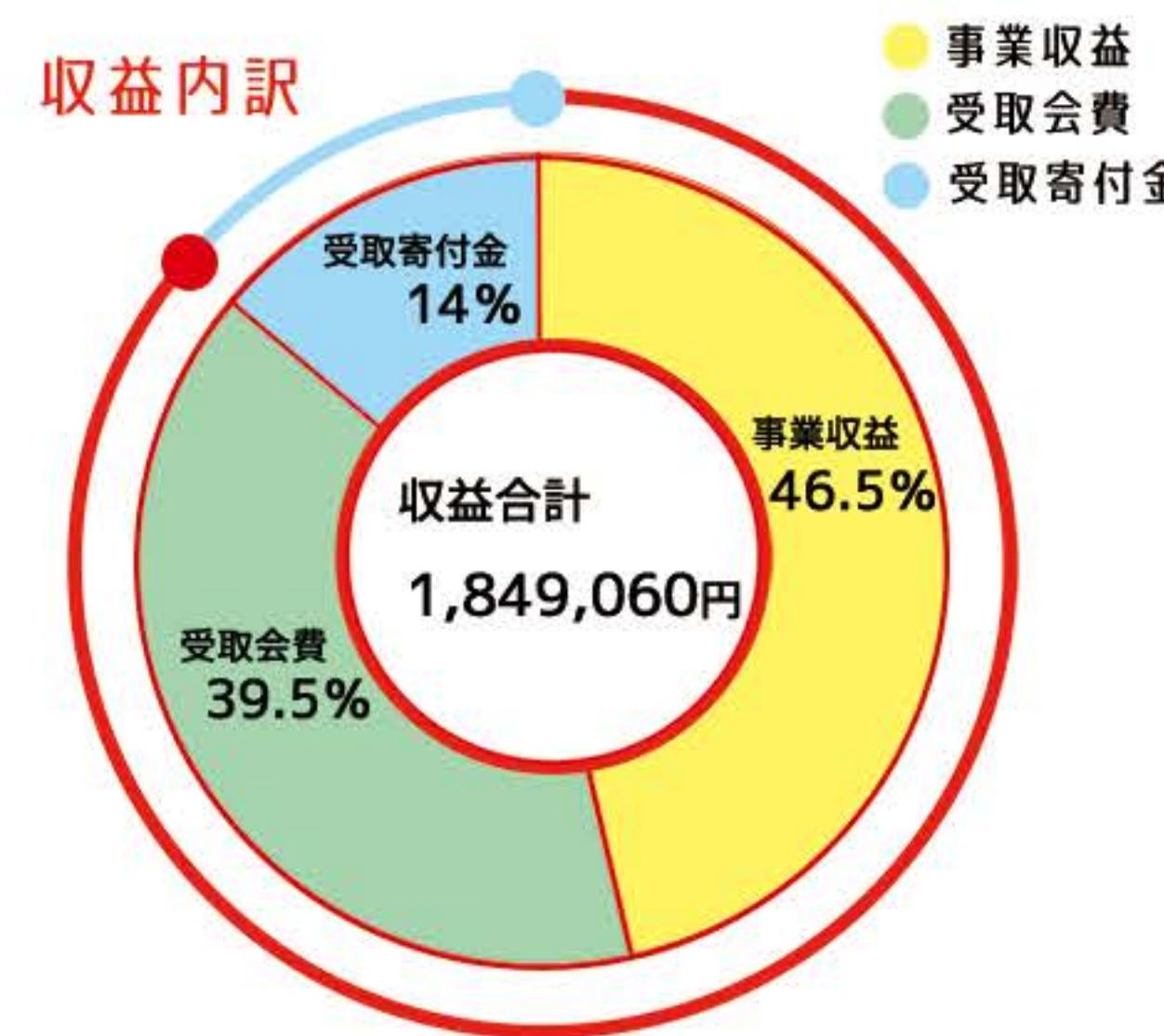


海外作品映画部門でグランプリを受賞したGiovanni Franchini監督と、最優秀助演女優賞に輝いたPaola Calliariさんと、そして公式エヴァンジェリストのSADA氏。イタリア文化会館-大阪の皆様には通訳などでお世話になりました。

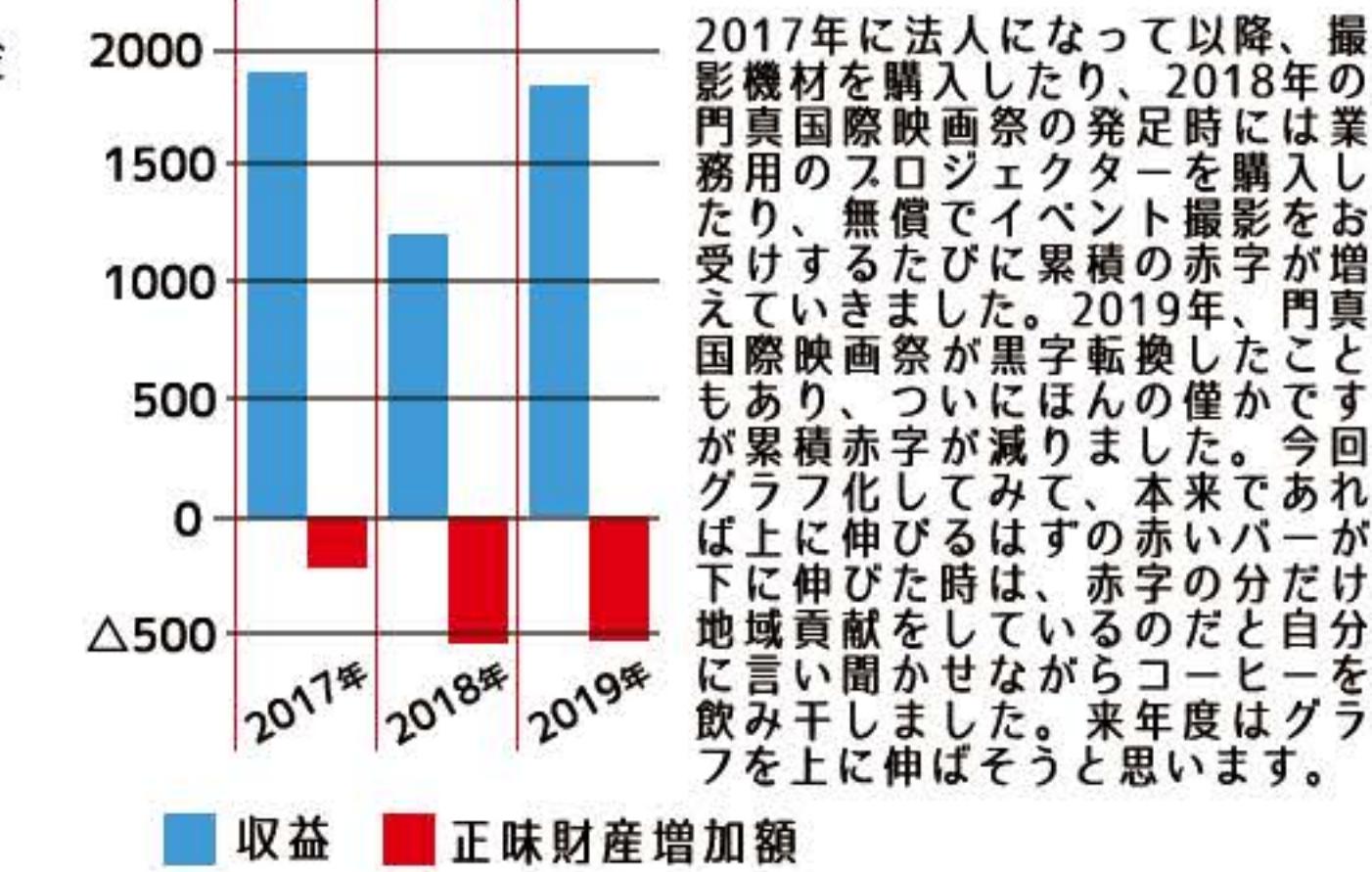
2019年度 財務報告

| 令和元年 活動計算書 | |
|------------|------------|
| 科目 | |
| I 経常収益 | |
| 1.受取寄付金 | 258,000円 |
| 2.受取助成金 | 0円 |
| 3.事業収益 | 859,900円 |
| 4.その他収益 | 0円 |
| 経常収益計 | 1,849,060円 |
| II 経常費用 | |
| 1.事業費 | 1,597,842円 |
| 2.管理費 | 241,500円 |
| 経常費用計 | 1,839,342円 |
| 当期経常増加額 | 9,718円 |
| III 経常外収入 | |
| 経常外収入計 | 0円 |
| IV 経常外費用 | |
| 経常外費用計 | 0円 |
| 当期正味財産増加額 | 9,718円 |

| 令和元年 貸借対照表 | |
|------------|-----------|
| 科目 | |
| I 資産の部 | |
| 1.流動資産 | 250,620円 |
| 2.固定資産 | 506,000円 |
| 3.繰延資産 | △500,000円 |
| 資産合計 | 256,620円 |
| II 負債の部 | |
| 1.流動負債 | 0円 |
| 2.固定負債 | 800,000円 |
| 負債合計 | 800,000円 |
| III 正味財産の部 | |
| 正味財産合計 | △543,380円 |
| 負債及び正味財産合計 | 256,620円 |



収益・正味財産増減額 (単位1000円)



2017年に法人になって以降、撮影機材を購入したり、2018年の門真国際映画祭の発足時には業務用のプロジェクトを購入したり、無償でイベント撮影を受けするたびに累積の赤字が増えていきました。2019年、門真国際映画祭が黒字転換したこともあり、ついにほんの僅かですが累積赤字が減りました。今回グラフ化してみて、本来であれば上に伸びるのは、赤字の分だけ自分に貢献をして、いるらコヒーレンスが高まっています。来年度はグラフを上に伸ばそうと思います。

主要事業別収益

(1) 地域魅力発信事業

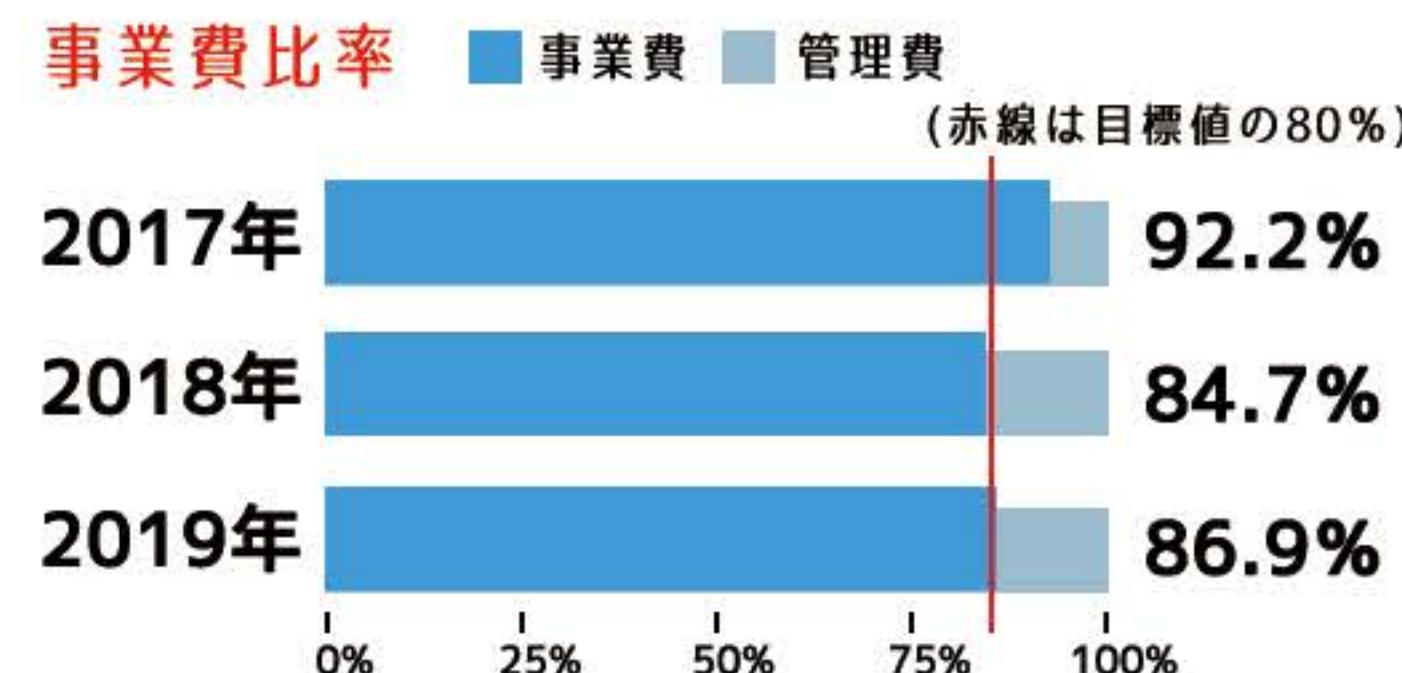
| | |
|-------|----------|
| 2017年 | 416,800円 |
| 2018年 | 0円 |
| 2019年 | 36,600円 |

(2) 人材育成事業

| | |
|-------|----------|
| 2017年 | 939,000円 |
| 2018年 | 0円 |
| 2019年 | 0円 |

(3) イベント活性事業

| | |
|-------|----------|
| 2017年 | 367,000円 |
| 2018年 | 945,200円 |
| 2019年 | 823,300円 |



事業のために支出した事業費と、団体を維持管理するための管理費との割合を示す事業費比率は、皆様からお預かりした寄付金や協賛金、会費をきちんと事業に使用したかどうかの比率と言えます。2019年度は86.9%となりました。門真フィルムコミッショングでは、事業費比率が80%程度になるよう運営しています。